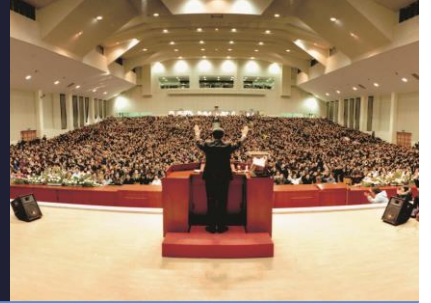


# 恵みと真理のニュース



2019年3月の一次 恵みと真理教会  
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



## 【証】

### わたしの祈りを聞かれて時によって助けてくださり、万事が益となるように共に働く神様の恵みと愛に感謝します

私は長い間、旦那が癒されるように祈りました。全ての家族が神様を礼拝を捧げる家庭を見たらやましくて、私が信仰が足りないのではなか、わたしの祈りが旦那が癒されるかなにかが溜まりました。そうする中で更年期になりました。わたしの弱みところも悪くなって数年間大変な時間を過ごしました。めまい、耳鳴り症、体がしみる症状で辛かったです。

体と心が弱くなり精神まで弱くなりました。体でさまざまな症状も辛かったです。でもわたしの神様弱みの症状がわたしの全てが癒されるかもしれない危機感を感じるようになりました。こんな私を教区の伝道士と牧師が祈ってくださって大きく慰められ、区域長達の祈りと愛も大きい力になりました。その感謝の気持ちを言葉で表現できないほどです。“早められたわたしのため良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。”(詩篇 119 : 71) この言葉のようにわたしの人生の暗闇だったその時が主にもっと近づいて主と深く関係を持つ時期でした。

区域で聖歌が多くて一週間二回づつ区域礼拝を捧げる時もありました。先健康を守りながら主の事を懐こいなさいという方々もいました。しかし、区域聖徒達の顔がちらちらと、二タラントも五タラントを残さなくても受け取るタラントとを地ご埋めておきなさいと考えました。また、奉仕を休むと大胆に神様を祈ることが出来ないようでした。そして、大変でも気振りをせよと職分を担いました。今考えてもよく決定したと思います。

ある日から、耳鳴りで耳でボイラーの音が大きく聞こえて狂ってしまうようでした。そんな定か一日ずつとそうでした。帰って来た旦那がソファに座っている私に苦しみある顔で私を見ながら“私が何かに痛んだら良いのになんかおれとどんどん弱くなってしまう。”としました。そして涙で流しました。私は旦那の心の変化が定か起っているのを感じました。このときだと思いました。

長い間、旦那を伝道しましたが、旦那が聞かふりもしなかったです。教会へ行こうと勧める話を嫌がると言うのころからまわす言っている愚かざとしました。旦那のため祈りながらたくさん涙を流しました。“旦那が生まれ変わったらいさだろう。蜂蜜より甘い神様の御言葉をわたしの隣の席で座って共に聴くと良いだろう。聖餐式で“おれをも救いし”と賛美する時、この聖霊充滿な教会で旦那と共に座っていらさうい

だろう。と思いました。

“あなた！わたしの一生の願いが一つありますが、あなたも知っているはずで、私が教会に行くこと。”“あなたも私と共に教会に行くならわたしの心も安定され治療も大きい助けになると思います。”そして、区域長のかばんの中に入れておきなさい靴下か思い出してかばんを開いて引き出しました。すると旦那が“なんで靴下が出てくる？”と聞きました。さまざまな表現できない感情が出て声を出して泣きながら言いました。“あなたがいつか私と共に教会に行くという信仰と希望でして、靴を入れておきなさいから代わりに靴下を入れておきなさい神様を祈っているのよと理由を話しました。そして、互いの目と口は涙でぐちゃぐちゃになりました。私がその靴下をかばんに入れておきなさい旦那が言いました。“古くなった靴下だね。もうかばんに入れる必要ない。もう捨てなさい。あなたが健康になるんだからついでに教会に行くよ。”としました。

“今回一度だけ行くのでおきなさい。”

“今回の日曜日は先が定かあつて次の週から必ず行く。”“夜にも礼拝があるよ。”“そう？そしたら夕方まで教会で会えかな？帰って来た主日のよ、旦那が明るい顔で教会に入る姿を見るとわたしの心も鳥肌が立つほど嬉しくて感激でした。神様おれと私の弱み体を用いてくださり、神様の祈りになると天下より良い魂を救ってくださいました。

教区、伝道士と牧師があらかじめ教室の扉の前に出て嬉しく向かって祈ってくださりました。両手を謙遜集めて礼拝を捧げる旦那を見るとその姿がとても珍しくて懐かしくなりました。その日、区域聖徒の礼拝を忘れることが出来ません。“神様、私にもこんなことが出来ますね。神様感謝します。旦那の救いのため祈って18年、わたしの生涯で一番いいついでに感謝の瞬間でした。その後、旦那は主日を良く守って神様の御言葉を聴いて信仰が成長しています。“だから、言うておく。祈り求めるものはすべて聞か得られたいと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。”(マルコによる福音書 11 : 24) アーメン

“二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」(使徒言行録 16 : 31) 好言葉を考えて婚家の福音化のため神様の福音と聖霊を期待して心がワクワクします。旦那が教会で奉仕することが一番楽しいことになり婚家の家族がイエス様を信じるようになり祈りました。

義母が子供を神様の御言葉と祈りで養育して世俗的な成功より聖書的な価値観と正しい人性をもっと重視するキリストの教育が良いので今も遅くなかったのかと聞いて教会へ通い始めました。私古くを伝道しようとして決意してか住んでいるテグまで行って教会へ連れて行きました。しかし、共に暮らしてはから縛って教会へ行かなく、その後からは教会に行かなくなりました。それで苦しい心で手紙を書きました。

“私かこの世で生まれて一番良いことをしたかイエス様を信じたことです。イエス様を信じ救われることがか出来る一番急ぐことです。母は教会へ行くなら私願うことが一つもないです。教会へ行くか牧師が

なぜイエス様を信じて信仰生活をするべきなのか良く教えて、祝福してください。後で教会へ行っても行かぬ時が来ます。こんな内容の手紙と共に旦那が聖書を持って教会の中に入る姿を撮った映像を遅らせました。

青年達が窮乏で苦しんでいる時、神様おれと私の子供達の願いを成し遂げてくださいました。約束の御言葉をもって最善の努力をするようにしてください、ついに願っていたことをするように整理してくださいました。息子は銀行員として娘が高校の数学教師で勤務するようにしてくださいました。娘は採用数か減らした任用大乱の中でも良い成績で任用試験合格してすぐ新しい学期から勤務するようになりました。神様の恵みです。

私達がマンションの分譲を受けるときも地域で最後で分譲するマンションなので競走かとても激しかったですが、神様の助けで調整してください、分譲をされることか出来ました。同時に私か神様の助けを求めながらこのように祈りました。“神様、これから老年に教会から近くで住みながら教会を仕えたいです。このマンションは教会まで7分距離あります。ところが、競走かとても激しくて動かづいていべきです。教会で熱心に主の事をする幸せを享受して時か天国へ行かれます。わたしの祈りが合点するとわたしの場を準備してください。しかし、わたしの御心ではなくても神様のまかの御心があると知ります。“神様の祈りを聞いて働いてくださいました。”

この家で20年間主を、私か神様を益する福を受けました。神様わたしの隣で真実の方々を多く送ってください、その方達の篤実な信仰と奉仕する姿を見習ってわたしの信仰が成長してくださいました。愛する区域の聖徒達と区域礼拝、区域長の祈り会、教会奉仕と伝道おれと私の人生の中心になりました。日々が美しく大事な道意をつみました。私かこんな福を受けてもいさだろうかと思うときが多かったです。

私は長い間、神様の約束した御言葉を強く握りながら神様の大きい愛と能力を多く体験しました。一節一節か祈ったことを神様に全部聞いておられたのだと、さすが神様は私達の祈りを聞いてくださり、全てか役となるように神を愛する者たち、つまり、御福音に従って召された者たちか、万事が益となるように共に働くという事実を深く悟りました。

今、わたしの健康も日々良くなって体も健康になっています。今日、私か祈ったのは全てか注の恵みになったのを告白しながら神様に感謝と賛美を捧げます。残った人生も主と共に歩み私を向かう神様の御心を成し遂げるため最善を尽くします。健康してもっと楽しくて幸せな心で教会を仕え主のことに力を尽くして天国へ行くのを希望し願う祈ります。ハレルヤ!



## 【信仰コラム】

## 義のために迫害されてくる人

“義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである...” (マタイによる福音書 5:10-12)

イエス様の山上の垂訓の中で“幸いである”という御言葉が二回言及された所は“義のために迫害されてきた人”についてだけです。“義のために迫害されてきた人”は倍の福を受けます。“義のために”という御言葉は“キリストのために”という御言葉と同一な意味です。イエスキリストを信じてその御言葉通りに生きていくためには様々な迫害を受けることを勘案しなければなりません。しかし、このような迫害を受ける者は幸いだといエス様が直接言われました。

第一は、この世がイエスキリストを信じる人を迫害する理由を調べてみます。

一、この世はキリスト人がこの世の風俗に従わないから迫害します。二、不信者に向けて神様の前で罪人だと言いつつ悔い改めるよう話すので迫害します。三、偶像崇拜を排撃するから迫害します。四、両親、兄弟、子供、夫、妻よりキリストをより愛するから迫害します。五、礼拝と奉仕に熱心に参詣するから迫害します。七、相手側が嫌がって拒むにも関わらず、続いて福音を述べ伝えるから迫害します。この世はサタンに属し

ています。この世がキリスト人と教会を嫌がって迫害することが少しも可笑しいことではありません。”といった、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける”と聖書はお話しています。

第二は、迫害を受ける時、私達が取るべき態度に関して調べてみます。

イエス様が“わたしのために人々があなたがたをのしり、また迫害し、あなたがたに 對し 偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ” (マタイによる福音書 5:11, 12) “... その日には喜びおどれ” (ルカによる福音書 6:22, 23) としました。迫害を受ける時、喜んで踊るべき理由がたくさんあります。

一、イエス様によって受ける迫害は迫害を受ける人が天国の民だという証明になるからです。二、イエス様によって受ける憎みは憎まれる人がこの世に属さず、イエス様の選びを受けたという証明になるからです。三、イエス様によって受ける迫害は迫害を受ける人が天の国で賞を受けることを証明するからです。四、イエス様によって受ける迫害は迫害を受ける人に昔の予言者達もこのような迫害を受けたということを思い出させるからです。私達が福音のために迫害を受けて蔑視と嘲弄を受ける時には優れた予言者の列に立っている自分を考えながら喜んで楽しむべきです。

第三は、迫害を受けるその時がイエスキリストに向けた自分の愛と忠誠を表わせる機会です。

皆さんは迫害を受ける時に“イエス様に向けた私の愛と忠誠を表わす絶好の機会だ。”と考えながらその機会を善用してください。私達が迫害を耐えて勝つことで、後を追う聖徒達に優れた模範になり激励になります。また迫害を受ける聖徒達は後に従う聖徒達に平坦な道を作ってあげます。今日、私達がこのように自由に信仰生活をするようになったのは前に行かれた聖徒達の殉教と献身のお陰です。聖徒達が迫害する者達が神様が迫害を受ける聖徒達を助けるために奇跡を行われることを見て悔い改め、イエス様を信じることもありました。

イエス様が言われた山上の垂訓は“心の貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである”と始まりましたが、最後にも“義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである”としました。一番目を、八番目も全て天国の福を受けるとしましたが、その次元が異なります。イエスキリストによって迫害を受ける人には賞が従う福が追加されました。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

## 神本主義の信者と人本主義の信者



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

宗教を信じる人を指して信者また聖徒と言います。その人が信じている宗教を示す必要がある場合には、キリスト教信者、仏教信者、ヒンズー教の信者などで表現します。キリスト教会は、他の宗教とは異なり、信者を厳密に区別します。神本主義と人本主義は信者を区別する方法の一つです。神本主義とは神の中心主義です。神がすべての始まりであり、根本的であり、中心になるという意味です。人本主義とは、様々な説明が伴う用語だが、信仰的の見地から簡単に概念整理をすると人の中心主義です。人がすべての中心になるという意味です。

神本主義は聖書の最初の一節である創世記 1 章 1 節に基づいています。「はじめに 神は 天と地とを創造された」という言葉です。「初めに、神が」という言葉は、歴史と物事の存在のもと、出発点、開始、始まりが神であるという事実を証言しています。神を前提せずには、すべての万物の根源も存在理由も目的もわかりません。人はすべてに常に神様を中心にお迎えし、神が優先される生活をするようにメッセージを込めています。神本主義で生活しなさいと言われていました。神が人生の優先であり、中心になるときに人生が正しい位置にいるようになります。真の平和と満足と幸福を得ることができます。聖書には、人本主義の悲劇と神本主義の幸せに対して教えがいろいろの形で記録されています。その中で人本主義と神本主義を鮮明に備えて見ることができる様々な人々が登場しています。今日はカインとアベルを比較してみましょう。

カインは人本主義で行動し、アベルは神本主義で行動しました。

人類の祖先アダムとエバは、神が食べないように命じられたその木の実を取って食べたので、犯罪者になりました。神はエバが善悪を知る木の実を食べるように誘惑した蛇とその背後の操縦者であるサタンを呪いし罰を宣告しました。続いてエバとアダムにも罰を宣告されました。その後、アダムとエバをエデンから追放しました。アダムとエバはエデンから追放された後に最初の息子カインを産みました。エバがまた息子を産んでカインの弟、アベルです。カインは農業をしました。アベルは「羊飼いの者」になったが羊に相当する原語は、一般的に家畜を指す言葉です。

カインとアベルは、それぞれ神に捧げ物を差し上げました。神はアダムが罪を犯した直後に、アダムを訪ねて来てあがないの捧げ物を通じた救いについて明らかにしました。創世記第 4 章に記録されたのを「日がたって、カインは地の産物を持ってきて、主に供え物とした。アベルもまた、その群れのういごと肥えたものを持ってきて、主はアベルとその供え物とを顧みられた」（創世記 4:3、4）しました。神はアベルとその供え物は顧みられましたがカインとその供え物は顧みられなかった。顧みというのは喜んで受けたという意味です。

神はアベルとその供え物は顧みられましたがカインとその供え物は顧みられなかった理由は何でしょうか？カインのいけにえとアベルのいけにえの違いは何ですか。

この質問は非常に重要です。これは、聖書全体を一貫している救いの真理が、その中で明らかになっているからです。カインとアベルのいけにえは、すべての面で他のものではありません。二人は、神がおられることを知って、神に仕えた事実において一致しました。二人がみんなが神に捧げ物をささげたという事実が、これを教えてくれます。神を仕え、善を奨励し、来世を認めることが一致すると、どの宗教を信じても神が顧みられることはありません。この重大な事実がカインとアベルのいけにえの記録に明らかに啓示されています。

まず、カインの祭祀について見てみましょう。彼は以前にしていた方法を変え、新しい方法を試すことに決めました。こうして地の所産で供物をして神に祭祀をしました。羊を取って祭祀するよりも手間と努力が必要であったものです。カインはそれなりに自分のアイデアで自ら感心しアベルの旧態依然たる祭祀の方法に比べ優越感を持ったのです。アベルはカインとは完全に違って思いました。アベルは祭祀の必要性とその方法、この人が創案して出したのではなく、最初から神の啓示で出てきたものであることに留意しました。そして、神が明らかにされたとおりに行いました。アベルは神に供物を捧げる目的と理由をアダムから伝授された通り信じていました。

アダムは、彼が犯罪して恥と恐怖を感じイテジクの葉を編んでスカートをして園の木の間で隠れているときに彼を訪ねて来られた神様が行われたことを通じあがないの恵みと真理を知ようになりました。

創世記 3 章 21 節に記録されることを「主なる神は 人とその妻とのために 皮の着物を造って、彼らに 着せられた」としました。これは、人間の罪をあがないするための最初の犠牲であり、旧約の贖いのいけにえの元形です。そして革の皮に血を流して死んだ動物は、将来、人類の罪をあがないを担当する元形です、イエス・キリストの犠牲の死のモデルです。ローマ人への手紙 3 章に「神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが」（ローマ人への手紙 3:25）としました。

カインのいけにえとアベルのいけにえで決定的な違いがヘブル人への手紙に記録されています。

「信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もなお語っている」（ヘブル人への手紙 11:4）しました。アベルが義と認められたのは、信仰によるものです。

その信仰と供物のためのものです。将来に来られる救世主すなわち私たちの罪のためにあがないの死を死なれるキリストイエスへの信仰を意味します。

アベルは供物の根本であり、内面的な意味を把握していました。アベルは、自分が罪人であることを認め、自分の罪を贖いしてくださる贖い主への信仰で捧げ物をあげました。アベルのささげ物は、イエス・キリストのモデルであり、影です。一方、カインは贖いの恵みと真理を無視し、彼の信仰を捨てました。

カインはあがないの恵みと真理への信仰なしにただ創造主を認める表示でいけにえを捧げました。したがって、アベルは神が願う通り供物を捧げたが、カインは自分が好きな供物でささげたのです。

「主はアベルとその供え物とを顧みられた。しかしカインとその供え物とは顧みられなかったのです」という言葉は、その人と供え物が分離されて扱われていないのが明らかになっています。その人の行為や人間らしくのが救いの要件ではありません。贖いの主を信じる信仰が救いの要件です。カインのいけにえは、人が考案したのもであり、アベルのいけにえは、神が啓示されたものです。カインのいけにえは人本主義で始まったものであり、アベルのいけにえは、神本主義から始まったものです。

カインのいけにえとアベルのいけにえを単純に見ると、わずかな違いようですが実は雲泥の差があります。

神が顧みられない祭祀と顧みられた祭祀の違いは、結果的には、深くの差があります。カインとアベルは、すべての人を二つの部類に分ける起源となったのです。人本主義と神本主義がこう二つの部類に分けられます。カインは弟アベルの供物だけ顧みられたことを見てはなはだ大いに憤って顔色が変わりました。カインは自分の考えや態度を変えず、むしろ弟アベルを嫉妬しました。カインは嫉妬によって弟を殺してしまいました。結局、カインは、主の前を離れて、エデンの東、ノドの地に行き住んでいました。アベルはたとえ殺されたが救世主の信仰のとおり行うので最初の殉教者の栄光に参加することになりました。

カインは不敬虔な群れの祖先となったが、アベルは真の信仰と敬虔の模範となった。救いの真理は人の脳から出ません。神の啓示からなります。聖書には、人間の救いのための神の計画と御旨が完全に啓示されています。ですから、私たちができるのは、聖書のどおり信じ聖書のどおり従うことだけです。テモテへの第二の手紙 3 章に記録することを「また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。」（テモテへの第二の手紙 3:15）しました。すべての宗教は大同小異だという話にだまされないでください。それはカインの考えであり、論理です。

イエス・キリストだけが救いの道であることを信じることと、イエス・キリストは、救いの道の中で一つであることを信じることはささいな違いと思うのですが、実際は天国と地獄の差を取り得します。アベルの供物とカインの供物は決して小さい差ではありません。アベルは神の御言葉の通りいけにえをささげました。カインは自分が熱心に研究した方法でいけにえをささげました。アベルは神を中心に考えて信じて行動しました。カインは自分の中心、人の中心に考えて信じて行動しました。アベルは神本主義の標本です。カインは人本主義の標本です。あなたはすべての神本主義の信者として神の中心に、聖書どおりの信仰で生活してをください。